

# 羅生門の後に

芥川龍之介

青空文庫



この集にはいつている短篇は、「羅生門」「貉」むじな「忠義」を除いて、大抵過去一年間——数え年にして、自分が廿五歳の時に書いたものである。そうして半は、なかば自分たちが経営している雑誌「新思潮」に、一度掲載されたものである。

この期間の自分は、東京帝国文科大学の怠惰なる学生であつた。講義は一週間に六七時間しか、聴きに行かない。試験は何時も、はなは甚だ曖昧な答案を書いて通過する、卒業論文の如きは、一週間でそうぼう匆忙の中に作成した。その自分がこれらの余戯よぎに耽り乍ら、とにかく卒業する事の出来たのは、一に同大学諸教授の雅量に負う所が少くない。唯ただ偏狭なる自分が衷心から其雅量そのに感謝する事の出来ないのは、遺憾である。

自分は「羅生門」以前にも、幾つかの短篇を書いていた。恐らく未完成の作をも加えたら、この集に入れたものの二倍には、上つていた事であろう。当時、発表する意志も、発表する機関もなかつた自分は、作家と読者と批評家とを一身に兼ねて、それで格別不満にも思わなかつた。尤も、もつと途中で三代目の「新思潮」の同人になつて、短篇を一つ発表した事がある。が、間もなく「新思潮」が廃刊すると共に、自分は又元の通り文壇とは縁のない人間になつてしまつた。

それが彼<sup>かれ</sup>是<sup>これ</sup>一年ばかり続く中に、一度「帝国文学」の新年号へ原稿を持ちこんで、返された覚えがあるが、間もなく二度目のがやつと同じ雑誌で活字になり、三度目のが又、半年ばかり経つて、どうにか日の目を見るような運びになった。その三度目が、この中へ入れた「羅生門」である。その発表後間もなく、自分は人<sup>ひと</sup>伝<sup>つて</sup>に加藤武雄君が、自分の小説を読んだと云<sup>い</sup>う事を聞いた。断つて置くが、読んだと云<sup>い</sup>う事を聞いたので、褒<sup>ほ</sup>めたと云<sup>い</sup>う事を聞いたのではない。けれども自分はそれだけで満足であつた。これが、自分の小説も友人以外に読者がある、そうして又同時にあり得ると云<sup>い</sup>う事を知<sup>し</sup>つた始<sup>はじ</sup>めである。

次いで、四代目の「新思潮」が久米、松岡、菊池、成瀬、自分の五人の手で、発刊された。そうして、その初号に載つた「鼻」を、夏目先生に、手紙で褒<sup>ほ</sup>めて頂<sup>もら</sup>いた。これが、自分の小説を友人以外の人に批評された、そうして又同時に、褒<sup>ほ</sup>めて貰<sup>もら</sup>つた始めである。

爾<sup>じつ</sup>来<sup>い</sup>程<sup>ち</sup>なく、鈴木三重吉氏の推薦によつて、「芋<sup>いも</sup>粥<sup>がゆ</sup>」を「新小説」に発表したのが、「新思潮」以外の雑誌に寄稿したのは、寧<sup>むし</sup>ろ「希望」に掲げられた、「虱<sup>しらみ</sup>」を以<sup>もつ</sup>て始めとするのである。

自分が、以上の事をこの集の後に記したのは、これらの作品を書いた時の自分を幾分でも自分に記念したかつたからに外ならない。自分の創作に対する所見、態度の如<sup>ごと</sup>きは、自<sup>おの</sup>分<sup>ずか</sup>

ら他に発表する機会があるであろう。唯、自分は近来ますます自分らしい道を、自分らしく歩くことによつてのみ、多少なりとも成長し得る事を感じている。従つて、屢々自分の頂戴する新理智派と云い、新技巧派と云う名称の如きは、何れも自分にとつては寧ろ迷惑な貼札たるに過ぎない。それらの名称によつて概括される程、自分の作品の特色が鮮明で単純だとは、到底自信する勇氣がないからである。

最後に自分は、常に自分を刺戟し鼓舞してくれる「新思潮」の同人に対して、改めて感謝の意を表したいと思う。この集の如きも、或は諸君の名によつて——同人の一人の著作として覚束ない存在を未来に保つような事があるかも知れない。そうなれば、勿論自分分は満足である。が、そうならなくとも亦必ずしも満足でない事はない。敢て同人に語を寄せる所以である。

大正六年五月

芥川龍之介



# 青空文庫情報

底本：「日本の文学 33 羅生門」ほるぷ出版

1984（昭和59）年8月1日初版第1刷発行

1986（昭和61）年12月1日初版第3刷発行

底本の親本：「羅生門」阿蘭陀書房

1917（大正6）年5月発行

入力：j.utiyama

校正：earthian

1998年12月28日公開

2004年3月17日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# 羅生門の後に

芥川龍之介

2020年 7月17日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>